

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		生野区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容			
0 相談支援事業所の概要		昨 年 度				今 年 度			
0-1 実施状況について									
	法人名称	特定非営利活動法人 自立支援センター・エボック							
	法人所在地	大阪市生野区巽北4-13-23勝山東ガーデンハイツ103							
	事業所名称	自立支援センター・エボック							
	事業所所在地	法人所在地と同じ							
	電話番号	06-6756-0807							
	実施曜日	月曜日～金曜日（祝祭日は除く）必要に応じて土曜日開所							
	実施時間	午前9時～午後6時							
同一場所で実施しているその他の事業	指定特定相談支援事業 指定一般相談支援事業 指定障害児相談支援事業								
実施法人で実施しているその他の事業	指定特定相談支援事業 指定一般相談支援事業 指定障害児相談支援事業								
事業所の特長	障がいのある人々の地域での自立と社会参加を目指し、そのための支援・啓発活動を行い、また障がい当事者スタッフがロールモデルとしてピアカウンセリングや自立生活プログラムの技術を用いて、地域で自立した生活を送れるように相談支援を行う。								
0-2 事務室等について		昨 年 度				今 年 度			
	事務室	50 m ²	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	相談室	10 m ²	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	その他		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
0-3 職員の状況		昨 年 度				今 年 度			
	常勤職員		非常勤職員		常勤職員		非常勤職員		
	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	
		6人	2人		1人	3人	1人	1人	
0-4 職員の勤務体制		昨 年 度				今 年 度			
	月～金	9:00～18:00		4人					
	水・金	9:00～16:00		1人					
	月・水・金	10:00～15:00		1人					
		実施曜日時間帯は、月曜日～金曜日のam9:00～pm6:00まで。 土曜、日曜、祝日においては、留守番電話での対応とし、必要に応じて開所。							
0-5 ピアカウンセリングの実施状況		昨 年 度				今 年 度			
	障がい名	実施曜日	実施時間		障がい名	実施曜日	実施時間		
	身体障がい	不定期			知的障がい	金	AM10:00-PM4:00		
					精神障がい	金	AM10:00-PM3:00		
					身体障がい	不定期			

事業所名	生野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1 事業運営全般	昨 年 度	今 年 度
1-0 理念・基本方針		
	<p>自分らしく「障害者が地域で当たり前暮らし権利があるんだ」と主張し始めた頃、日本社会の障害者は施設か、家庭内での閉鎖された場所での生活を余儀なくされていました。また、社会的偏見、差別を受けてきた時代でもありました。</p> <p>ノーマライゼーションの思想や、その基本理念による世界的な動きの中で日本でも国際障害者年を期に障害者の生活も徐々に変わりだし、今まで限られた場所での生活を強いられてきた障害者が、自分らしい生活を求め自立を目指し、また社会的な生活環境もハード面での変化が起こり始めました。</p> <p>高齢化社会とともに日本でもバリアフリー法が施行され障害者にも利用しやすい町づくりが押し進められつつあります。一方、ソフト面では偏見や人権侵害といった問題、特に精神障害者や知的障害者の差別がまだまだ後を絶たず、真の意味でのノーマライゼーションの理念には乏しい現実があることは否定出来ません。</p> <p>2000年の社会福祉基礎構造改革により障害者は、今以上に「自己選択」「自己決定」が重要となり、そのための支援のあり方が問われつつあります。</p> <p>そこで、身体障害者にとられずに知的障害や精神障害、また、児童期の支援も含めて不特定多数の障害を持つ人々に対し、個々の様々な問題に対する情報を提供するサービス機関の存在が必要になってくると思われます。</p> <p>自立支援センター・エポックは、それぞれの問題に対し、個々のニーズに応えられるように各種の制度を利用し、地域で自立生活をしている障害当事者スタッフがロールモデルとしての役割を果たしえるものとして実体験をもとに同じ境遇の障害者にしかできない支援のあり方を考えていきたいと思っています。</p> <p>エポックの語源に「新時代を切り開く」という意味があるように制度の変革に立ち向かう気持ちで支援の輪を拡げ、差別や偏見といった心のバリアを取り除きよりよい社会を目指します。</p> <p>障害を持つ人々の社会参加と自立を目指し、そのための支援、啓発活動を行うことにより、福祉の推進に寄与することを目的とします。</p>	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		生野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-1 運営体制		昨年度		今年度	
1-1-① 事業運営の評価		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	事業の理念・基本方針を実現するための具体的な取り組みを示すものとして、委託期間全体を通じた計画が定められている。	3	ガイドヘルパー養成講座、ゲートキーパー研修、防災研修等を開催。	3	理念・基本方針に基づき次期事業計画に反映している。
	委託期間全体を通じた計画を踏まえて年度ごとの事業計画を策定している。	3	基本方針を参考に年度ごとの事業計画を策定している。	3	基本方針を参考に年度ごとの事業計画を策定している。
委託期間全体を通じた計画及び年度ごとの事業計画に基づき事業を実施し、その結果を評価している。	3	前年度に引き続き評価をしている。	3	前年度に引き続き評価をしている。	
事業の評価の結果は、次期計画に反映している。	3	事業計画の評価に基づき次期事業計画に反映している。	3	事業計画の評価に基づき次期事業計画に反映している。	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		生野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2 適切な相談支援の実施		昨年度		今年度	
1-2-① 自己決定の尊重		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	必要な情報を理解できるように提供するとともに、体験、経験する機会を設けるなど利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。	5	自分で判断するために、見学・体験・経験する機会を通して自身が実感するように機会を設定している。 それぞれに応じて振り返りを行い、必要に応じ繰り返し行っている。 自分で判断したことを表現する場を設定。 これらの取り組みを、ILPやサロン等を活用し、集団・個別で対応している。	5	
1-2-② エンパワメントの重視		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者のエンパワメントが図られるよう努めている。	4	その人の考え・特徴・癖などを理解し、利用者自身が自身のことを理解し気づけるよう、やりとりを繰り返す。 その人が持っている「悩む力」・「考える力」に着目し、本人が気づけるよう取り組む。	4	社会福祉士の考え方（地域・世代・対人援助） 相談者の属性を学ぶ必要がある。 障がい特性だけではなく、生野区に住む〇〇さんを知る。 そのためには、生野のこと、大阪のことを知る。 どういう環境で生活してきたのかという視点
			支援者の取組が必要。 ・支援者自身の客観視（ふるまい等） ・支援者自身の考え方（人生観・価値観・文化・性格・行動等）に合わせて、専門的な物事の考え方（専門性）の必要性がある。		
1-2-③ コミュニケーションに関する配慮		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	意思伝達に制限のある人の場合、手話や点字、筆談、映像を利用するなど、その人に合った個別のコミュニケーション手段を検討し、それに基づく対応を行っている。	4	筆談、メール、映像、イラスト、写真、色分け等、わかりやすい方法で個別に対応している。 手話通訳の活用。 話す内容・時間、予定等を具体的に決め対応している。	4	メール・ライン・フェイスブック等による表現・本人からの発信。 発信することで、本人の存在自覚の認識
			若い方からは、LINEでのやり取りを求められる声が少しずつ挙がってきている。 それらについては、今後検討していく必要がある。		
b	一度の面接では意思確認等が困難であるような、著しく意思伝達に制限のある人の場合、日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。	4	スタッフ、関わりのある人から確認する等の工夫をしている。 場面や関係によって違いを発見できるよう心がけている。 （家・日中・余暇・性別・国籍等）	4	支援者のノンバーバルコミュニケーションを高める
c	意思伝達に制限のある人の場合、他機関職員との連携や、本人が信頼できる知人、代弁者、手話通訳者等を受け入れるなど、コミュニケーションを行う環境に配慮して、その人の意思や希望をできるだけ正しく理解しようと努力している。	4	かかわりのある人から確認するように努めている。 その人独自の方法を受け入れ対応している。 外国語が必要な相談者のために、外国語が話せるボランティア等を求めた。	4	手話通訳派遣事業の利用

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		生野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-④ 権利擁護		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者の立場を擁護し、ニーズ表明を支援・代弁することにより、問題解決力や様々な支援を活用する力を高めているような支援に努めている。	4	代弁をすることもあるが、エンパワーメントの視点からも、その人にとってニーズ整理、方法についての支援を行っている。 また、本人のニーズ課題を整理し、関係者を招集し伝えている。 専門機関の活用＝社会資源を知る。	4	
	b	人権侵害が発生した場合にはその解決のために積極的に対処している。	3	本人と相手や関係機関事業者が話しあう機会を設定し対応している。 本人に対し、運営適正化委員会やおおさか介護サービス相談センターなどの第三者委員の活用や方法、社会資源の活用等、本人に対し情報提供を行っている。	3
c	虐待が危惧される場合は、関係行政機関と連携し適切な対応を行っている。	4	虐待の疑いがある場合は、速やかに関係行政機関担当者に連携をとっている。	4	虐待対応件数は少ない。 疑いがある時は、速やかに管轄区担当者に相談している。

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		生野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3 地域・他機関との交流・連携		昨年度		今年度	
1-3-① 他の関係機関との連携		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	担当区域の地域自立支援協議会に積極的に参加し、様々な取組を提案するなど、協議会の活性化に努めている。	4	生野区自立支援協議会に参加し、事務局担当・委員と打ち合わせを行い、様々な提案を行っている。	4	
b	協働する関係機関や関係団体等が増え、連携が深まっている。	4	相談支援事業者連絡会の部会を設置 地域見守りプロジェクト会議と生野くらしリセット会議に出席し、個別ケースに対しては連携して取り組んでいる。 相談支援事業者連絡会の部会を設置し、区の相談支援事業の業務に関する課題や制度学習、困難ケースへの対応を共有していく。 見守り支援との連携	4	生野区自立支援協議会、生野区相談支援事業者連絡会、管轄区共催で、啓発活動として『生野区における相談支援事業について』を開催。
1-3-② 地域の障がい者の状況把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談者に限らず、地域の障がい者を取り巻く状況や課題はおおむね把握できている。	3	相談者数の増加に伴い、相談者や関係機関の広がりから、一部の状況は把握できている。 ケース会議、地域ケア会議に出席し把握に努めている。	3	
b	障がい者支援機関のみならず地域の福祉・労働・教育・保健医療機関と定期的な会議を開催する等によって、ニーズの把握に努めている。	4	区内の4包括支援センター・5ランチが集まり地域包括ケアに関する協議、実施を行う包括ランチ連絡会に定期的に参画。 関係のあるケースにおいて地域ケア会議に出席することでニーズ把握に努めている。 地域見守りプロジェクト会議と生野くらしリセット会議に出席し、個別ケースに対しては連携して取り組んでいる。	4	
c	アウトリーチ活動に取り組むことにより、ニーズの把握に努めている。	3	特に支援機関や団体との関係がない、もしくは薄い人へのアウトリーチ活動に努めている。 高齢者の支援者とのネットワークに参加し、アウトリーチ活動に努めている。	3	一部の住民からの相談 個別相談から近隣との関係を深めることにより、別の相談を対応している

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		生野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3-③ 地域の社会資源の把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	サービス提供事業所や専門相談機関を把握している。	4	把握し整理している。 事業所の特徴を把握した資料作りをしている。	4	
b	学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。	4	就労や様々な会議で関係機関の情報収集に務めている。	4	
c	民生委員、地域ネットワーク委員、ボランティア団体などを把握している。	3	ケース内容から、支援の輪を広げることにより把握できるよう努めている。 社会福祉協議会・包括支援センターに協力を求める。	3	
d	駅や図書館、スポーツセンターなどの公共施設や、金融機関や飲食店、商店などの民間施設、障がい者用トイレやエレベーター等の設備の情報を収集している。	3	情報収集のみ行っている。 交流サロンで当事者同士の利用情報など情報交換を行い情報を収集している。	3	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		生野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3-④ 社会資源の改善・開発に向けた取組み		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	既存のサービスの活用だけでなく、既存の社会資源の「改善」や新たな社会資源の「開発」に向けて取り組んだ。	4	<p>交流サロンで当事者同士の利用情報など情報交換を行い情報を収集している。</p> <p>障がいの支援に積極的にかかわる事業所や高齢者支援の関係事業所に対し、障害の特性やかかわり方、制度・サービス利用の考え方などの啓発活動を行い、改善に取り組んでいる。</p>	4	『人材』を1つの社会資源ととらえ、関係事業所職員に対し、障害の特性やかかわり方、制度・サービス利用の考え方などの啓発活動を行い、改善を継続して取り組んでいる。
1-3-⑤ 支援困難事例への積極的な対応		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	多問題を抱えた事例や、問題が長期にわたって継続し、解決の糸口を見つけないことが困難な事例など支援困難事例への対応を積極的に行っている。	5	<p>継続して積極的に対応している。</p> <p>ケース内容に応じ、管轄区障がい担当、精神保健福祉士、地区担当保健師、子育て支援室、生活支援課等と連携している。</p> <p>1. 基幹センターや関係機関を活用し、スーパーバイザーから意見等をもらう。</p> <p>2. 相談支援連絡会で共有、意見交換等、を取り組み、困難ケースへの対応力を高めていく。</p> <p>基幹センターや関係機関を活用し、スーパーバイザーから意見等をもらう。</p> <p>困難ケースへの対応力を高めていく。</p>	5	<p>基幹センターや関係機関を活用し、スーパーバイザーから意見等をもらうケース検討会を行っている。</p> <p>事例検討等、外部が開催する研修に積極的に参加し、ケース対応力を高めていく。</p>
1-3-⑥ 地域住民への周知・啓発的活動の実施		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	障がい者相談支援センターは、自らの役割について地域住民に対して積極的な周知を図っている。	3	HPによる情報提供、セミナーや講演会などを開催し、周知を行っている。	3	
b	地域住民との交流や講演会の開催等を通じて、障がい者が地域で共に生きていく意義をはじめ、啓発的活動に積極的に取り組んでいる。	3	ケースでかかわった地域住民等に、積極的に啓発活動に取り組んでいる。	3	障がいの理解を伝えるために、連合町会家族支援教室や地域活動ボランティア研修、地域の中学校で行う福祉教育などの活動に取り組んでいる。

事業所名	生野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1-4 その他の取組み	昨 年 度	今 年 度
	<p>前年度に引き続き継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域見守りプロジェクト会議と生野くらしリセット会議の定期会議の参加 個別ケースに対しては連携して取り組んでいる。 ・後方支援の取組 ①計画相談に対する支援 ・生野区相談支援事業者連絡会を設置し、毎月定例会を行う。 ②相談支援専門員の質の向上の取り組み ・初任者研修のファシリテーターを行う。 ・地域との連携強化 包括支援センター、ランチ、居宅介護支援事業所等に対する支援 高齢者世帯に同居する障害のあるかたの支援や介護保険との併給利用、移行時におけるの連携・調整支援。 高齢者にかかわる関係者に対し、障害分野の制度連携、障害福祉サービスの現状等の講演を行う。 ・高齢者と障がい者世帯への多問題（複合支援）への取組 	<p>前年度に引き続き継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後方支援の取組 ①計画相談に対する支援 ・生野区相談支援事業者連絡会を設置し、相談支援専門員のスキルアップに努めている。 ・生野区内の新しい相談支援専門員の同行支援 ・相談支援事業の啓発活動 ②相談支援専門員の質の向上の取り組み ・初任者研修のファシリテーターとして協力 ・地域との連携強化 包括支援センター、ランチ、居宅介護支援事業所等に対する支援 高齢者世帯に同居する障害のあるかたの支援や介護保険との併給利用、移行時におけるの連携・調整支援。 高齢者にかかわる関係者に対し、障害分野の制度連携、障害福祉サービスの現状等の講演を行う。 ・高齢者と障がい者世帯への多問題（複合支援）への取組 ・地域見守りプロジェクト会議と生野くらしリセット会議の定期会議の参加 個別ケースに対しては連携して取り組んでいる。

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		生野区障がい者相談支援センター								変更又は改善内容								
2 日々の相談支援業務		平成27年度								平成28年度								
2-1 継続支援対象者数		平成27年度								平成28年度								
①利用登録者(継続支援対象者)の実人数(指定相談支援を除く)		平成27年度								平成28年度								
障がい種別		前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数					
身体障がい	視 覚	0	0	0	0	0	2	1	1									
	聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0									
	肢 体	4	0	3	1	1	1	0	2									
	内 部	1	0	0	1	1	0	1	0									
	計	5	0	3	2	2	3	2	3									
難 病	0	1	1	0	0	0	0	0	0									
知的障がい	80	2	15	67	67	6	6	67										
精神障がい	15	9	9	15	15	11	1	25										
障がい児	0	2	2	0	0	0	0	0										
重複障がい	15	3	10	8	8	3	0	11										
そ の 他	0	0	0	0	0	2	2	0										
合 計		115	17	40	92	92	25	11	106									
②指定特定相談支援を実施した実人数		身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計							
		45 人	44 人	64 人	25 人	178 人	37 人	45 人	56 人	26 人	164 人							
2-2 相談支援内容		平成27年度								平成28年度								
①延べ相談件数		福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計	福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計	
身体障がい	視 覚	利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	5	9	0	0	0	0	0	14	
		それ以外	28	24	0	0	0	0	0	52	18	20	0	0	0	0	38	
	聴 覚	利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		それ以外	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
	肢 体	利用登録者	28	34	12	6	0	0	0	80	4	8	8	5	0	0	0	25
		それ以外	146	156	0	0	3	0	11	316	58	81	2	1	0	1	0	143
	内 部	利用登録者	15	17	3	0	0	0	2	37	0	0	0	0	0	0	0	
		それ以外	4	4	0	0	0	0	3	11	4	1	0	0	0	0	0	
	計	利用登録者	43	51	15	6	0	0	2	117	9	17	8	5	0	0	0	39
		それ以外	179	185	0	0	3	0	14	381	80	102	2	1	0	1	0	186
	難 病	利用登録者	9	9	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0
		それ以外	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
知的障がい	利用登録者	68	104	279	256	5	1	7	720	75	131	246	237	9	3	44	745	
	それ以外	145	155	5	4	3	1	14	327	38	65	14	13	0	0	8	138	
精神障がい	利用登録者	230	311	243	29	15	0	21	849	128	276	199	34	6	4	40	687	
	それ以外	299	373	9	0	13	0	31	725	278	406	7	0	7	17	36	751	
障がい児	利用登録者	67	68	10	1	0	0	0	146	0	0	0	0	0	0	0	0	
	それ以外	10	12	0	0	0	0	0	22	13	16	0	0	0	0	6	35	
重複障がい	利用登録者	172	187	84	24	0	0	1	468	39	41	65	46	0	0	1	192	
	それ以外	40	43	0	0	0	0	4	87	22	34	1	2	0	1	1	61	
そ の 他	利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	0	6	13	0	0	0	0	7	26	
	それ以外	40	49	5	0	0	0	12	106	28	79	0	0	8	1	56	172	
合計	利用登録者	589	730	631	316	20	1	31	2318	257	478	518	322	15	7	92	1689	
	それ以外	713	817	19	4	19	1	75	1648	460	703	24	16	15	20	107	1345	
総合計		1302	1547	650	320	39	2	106	3966	717	1181	542	338	30	27	199	3034	
②相談の実施方法		来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計	来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計							
		251 件	1266 件	575 件	7 件	2099 件	225 件	977 件	491 件	33 件	1726 件							

事業所名	生野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
2-3 日々の相談件数の分析	平成27年度	平成28年度
	<p>委託相談支援事業では、平成27年度～平成29年度の生野区障がい者相談支援センター（以下区センター）を受託することができ、第2期の1年間が終了した。</p> <p>今回の生野区障がい者相談支援センターの事業計画の基本方針には、障害者権利条約が批准されたことを踏まえ、「他の者と平等を基礎として、居住地を選択し、どこで誰と生活するかを選択する機会を有すること、特定の生活施設で生活する義務を負わないこと」に則った、地域での自立した生活支援を目指すとし、①個別支援計画の作成 ②高齢障がい者の支援が課題であること（高齢者世帯を含む） ③相談支援部会の設置を重点とした。</p> <p>計画相談支援事業の課題については、報酬や資格取得のための経験年数や障がい者支援の難しさ等から敬遠されがちではあったが、区内に計画相談支援事業者が増えつつある。が、同時に、現状の相談支援専門員及び相談支援員の配置に対し、計画相談の依頼も増加してきている課題がある。</p> <p>今まではそれぞれの事業者の関係の上で連携を図っていたが、区とともに区センターが中心になって相談支援連絡会を設置し、管轄区と速やかに業務ができるよう、制度利用や手続きの共有、や相談支援の研修、情報共有や事例検討など相談支援の質の向上やを図ることを目的とし定期開催した。</p> <p>個別支援計画は、相談者及び家族の意思を尊重し、相談者及び家族や関わる方から聞き取りを行う等して多面的にとらえた。</p> <p>サービス利用計画の利用をしていない人にもサービス調整の際にわかりやすいように視覚化し、本人ニーズや課題整理をすることを目的としている。様々な社会資源を活用し、新しい環境や関係等により、より多面的にとらえていき、ILP、交流サロン、当事者活動により、関係作りをすすめ、本人像の把握に努めた。</p> <p>また、生野区内の障がい福祉サービス事業者の情報収集を行い、それらを相談者に提供していくことで、特定の事業者に偏らないように心がけた。</p> <p>地域の特性として高齢者世帯が多いことと高齢者が障がいのある成人した子を見ている状況がある。また、区内で高齢・障がい者世帯の事故（障がい者を介護していた父が介護疲れからの自殺？事故？）があった。他にも、古家・空き家も多く、単身世帯・生活保護受給者、町会費を支払っていないことで、地域の住民の把握が困難になっており、回覧板が回らず孤立しがちで、地域とのつながりが希薄になり、そこから、セルフネグレクトや自殺、薬物アルコール等の依存等から、生活に支障をきたし、近隣との問題も発生しがちである。</p> <p>前年度に引き続き、区内の4包括支援センターとの関係が強化し、さらに見守り支援等の会議に参加し、高齢・障がい者世帯の支援を協力して取り組めるようになったのは大きな成果といえる。</p> <p>障がいのある人が地域生活をするにあたり、近隣との関係が影響することがあるが、当センターは住民・町会や民生委員への周知・啓発が弱いのが課題であったが、ケースごとに包括支援センターや区社会福祉協議会の協力のもと、積極的に取り組んでいる。</p>	<p>相談者から見えるニーズとして、就労サービスの利用ニーズに伴うサービス調整の支援が増加している反面、生活介護のサービス利用意向のニーズが低下傾向にあるようで、生活介護事業所から新規利用者の意向ニーズ把握に努める動きも出てきている。</p> <p>また、既存の社会資源にそぐわない方も多く、サービス調整を行うが結果、日中を在宅で過ごす生活に陥り、ヘルパーと相談支援専門員しか話をする関係がない生活環境がある。</p> <p>改めて、福祉サービス以外の新たな社会資源の開発が必要であることがわかってきた。今後も更に、ニーズ整理をしていき、相談者にとって必要な支援・資源は何かを探る必要がある。</p> <p>他にも、主な困難ケースとして</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 個々の心身の状態等（意思決定が困難な方）の意思決定、自己決定の支援 2) 障がいの受容、きっかけを作り出す支援 4) 軽度の知的・発達障がい・精神障がいの方の支援 →既存の福祉サービスの形にそぐわない人たちの支援 →軽犯罪に伴い、拘留を繰り返す方の支援（窃盗、薬物等） →医療観察制度による対象者の地域社会における支援と連携 5) 高齢者の家族と障がいのある子どもの世帯への支援 6) 医療的ケアが必要な方の地域生活支援 7) クレーム・苦情対応の増加し、さらに関係機関の事業所職員から対応や考えの相談 <p>区センター全体としては、地域との連携、ネットワーク構築の取り組みを積極的に行い、総合的に福祉サービスの調整、利用援助等の継続支援に努め、関係の幅が増えた。</p> <p>また、困難な相談ケースについては、個別支援会議等を中心に、困難事例の対応を検討し、区保健福祉センター・地域の連絡会とも連携をとり支援を行うよう努めた。</p>

事業所名	生野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
	<p>障がいがあっても入居できる物件や緊急時に対応できる障がい福祉サービスなどが不足している問題を始め、トラブル・苦情に関する各機関との連絡調整、緊急対応や集中的な支援が必要等の多岐にわたる相談が区内の包括支援センターやケアマネージャー等や行政機関、医療機関からの相談が増加し受付ルートの幅も広がった。</p> <p>区センター全体としては、地域との連携、ネットワーク構築の取り組みを積極的に行い、総合的に福祉サービスの調整、利用援助等の継続支援に努め、関係の幅が増えた。また、困難な相談ケースについては、個別支援会議等を中心に、困難事例の対応を検討し、区保健福祉センター・地域の連絡会とも連携をとり支援を行うよう努めた。</p>	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		生野区障がい者相談支援センター						変更又は改善内容					
2-4 住宅入居等支援事業の実施状況		平成27年度						平成28年度					
①実施状況		入居斡旋件数		登録者数		緊急対応件数		入居斡旋件数		登録者数		緊急対応件数	
	身体障がい	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		0 件	
	知的障がい	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		0 件	
	精神障がい	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		0 件	
	重複障がい	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		5 件	
	難病・その他	0 件		0 件		0 件		0 件		0 件		0 件	
	計	0 件		0 人		0 件		0 件		0 人		5 件	
②緊急対応の内訳		時間帯別			平日・休日別			時間帯別			平日・休日別		
	夜間出動	0 件			休日出動			夜間出動			2 件		
	日中出動	0 件			平日出動			日中出動			3 件		
	合計	0 件			合計			合計			5 件		
	出動要請者			出動内容			出動要請者			出動内容			
	本人	0 件			病気・けが等の発生			本人			3 件		
	家主	0 件			精神症状の悪化			家主			0 件		
	近隣	0 件			日常生活上のアクシデント			近隣			0 件		
	警察・消防	0 件			家事・災害等			警察・消防			0 件		
	医療機関	0 件			近隣からのクレーム			医療機関			0 件		
	その他	0 件			その他			その他			2 件		
2-5 業務委託料の収支精算見込について		平成27年度						平成28年度					
①歳入		科目		金額		内訳		金額		内訳			
	業務委託料	16,396,000 円						16,346,000 円					
	預金利子												
	その他												
	合計	16,396,000 円						16,346,000 円					
②歳出		科目		金額		内訳		金額		内訳			
	人件費	12,683,528 円						13,961,358 円					
	給料手当	10,719,461 円						11,819,837 円					
	法定福利費	1,819,289 円						1,665,848 円		社・保事業主負担分			
	福利厚生費	144,778 円						101,425 円					
	諸手当							374,248 円		通勤手当等			
	物件費	3,712,472 円						2,384,642 円					
	旅費交通費	190,436 円						32,750 円					
	通信運搬費	284,418 円						307,779 円		電話・郵便代			
	消耗品費	89,254 円						38,634 円					
	事務用品費	135,759 円						158,407 円					
	修繕費	102,241 円						19,408 円					
	水道光熱費	110,228 円						103,692 円					
	新聞図書費	21,920 円						10,480 円					
	支払手数料							28,917 円					
	リース料	179,976 円						176,143 円		コピー機リース料			
	保険料	285,368 円											
	地代家賃	1,001,160 円						933,265 円					
	租税公課												
	減価償却費												
	研修費	57,240 円						82,885 円		講演会講師料等			
	諸会費	19,548 円											
	退職金積立	170,100 円						181,217 円					
	印刷製本費	162,959 円						145,441 円					
	諸手当	552,717 円											
	備品費												
	講師料	50,000 円											
	準備費	199,939 円						92,168 円		材料費			
	会場費	87,830 円						51,878 円					
	雑費	11,379 円						21,578 円					
	合計	16,396,000 円						16,346,000 円					

事業所名		生野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
3 区における地域課題について		昨 年 度	今 年 度
区における全般的な課題についての現状認識及びその解決・改善に向けた提案・提言など			
		*別紙5参照	*別紙5参照
4 自己評価を終えて		昨 年 度	今 年 度
4-1 区地域自立支援協議会での報告			
	報告日	2016年7月19日（火）	
	出席者からの意見		
	0 相談支援事業所の概要		
	1 事業運営全般		
	2 日々の相談支援業務	<p>○精神障がい者の相談件数が増加しているが、どういった相談をされているのか？ →多くが在宅生活をされている人たちで、主な相談はヘルパーに関する相談が多い。病院のことや就労等の相談もある。</p> <p>○生野くらしリセット会議（「大阪市住居における物品等の堆積による不良な状態の適正化に関する条例」に基づく会議）や地域見守りプロジェクト会議に生野区センターは出席されているが、他区ではどのような状況か？ →生野くらしリセット会議と同様な会議については、区センター連絡会にて生野区のほか2区ほどが出席状況について発言されていたが、出席状況はわずかの様子。 地域見守りプロジェクト会議については意見交換さえなく、状況は不明。</p>	
	3 区における地域課題について		

事業所名	生野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4-2 一連の自己評価のプロセスを終えて	昨 年 度	今 年 度
	<p>自己評価を行うにあたり相談内容や件数を振り返ると、相談内容の困難さや複雑さと件数が増加している。</p> <p>相談者から、「電話をかけても担当者不在のことが多い」、「事業者からは多くの利用者の1人かもしれないが、自分にとっては限られた相談できる場所」と、対応に追われてしまっている現状を指摘された。改めて、本人に向き合っ てエンパワメントや社会生活力向上等を志向する時間をかけた対応ができるのが委託相談支援であるが、展開できていないことに気づかされる。</p> <p>また、エンパワメントや社会生活力向上のために相談支援者としての自身の立ち位置や考えを客観的にとらえることが必要であるが、今までどおりのことをするにとどまっている。</p> <p>一方で、高齢者が多い地域であることから、包括支援センターや介護保険事業者との連携は進んでおり、高齢・障がい者世帯への取り組みや、生野暮らしリセット会議や地域見守りプロジェクト会議にも出席して地域での取り組みにも力を入れるようになった。</p> <p>相談の記録を整理する中で、軽度な障がい者の中に、「自分は障がい者ではない、しかし少しの助言があればいい」と、現行の福祉サービスには該当しないサービスを求める人が増えているのも振り返ることができた。</p>	